

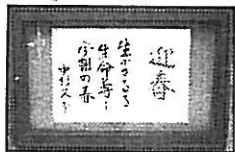
風 かせ カゼ

2001.1-18発行 NO.29

◇年頭掲示板は「生かされて生きる」

毎年年頭の七日間は中村久子女史の「生かされるる生命尊し 今朝の春」の句を掲示しております。

生きてるのは当然 当たり前、他人の世話にならなくても一人で生きていけると思いがちな私ですが、考えてみますと私の命を支えてくれる米や野菜は勿論のこと生きるために必要な空気や水までも仏のお手間わしであったと、生命の尊さを味わいさせたいことです。この句は幼少時、脱疽病で両手両足を失った久子さんだけに重みがかんじられます。年頭だけでなく通年掲げたい有り難い言葉でもあります。



◇時の風を感じての記

今年の歌会初めのお題は「草」とのことでした。そして最年少の入選者は兵庫県の高三後藤栄晴君であり彼の入選歌は「青春の真っ只中に 今はいる 自分という草 育てるために」と報じていました。自分という草を青春土壌の中で育みたいという願いと歓喜の歌と味わいますが、之に反して四国某市の成人式での一部青年の報道情景は異常でした。彼等の「自分という草」のための土壌改良と育成が気がかりでもあります

◇今月の安楽寺伝道掲示板

信心は

心を開き

疑は

心を閉す

〒105-0014

東京都港区芝1-12-18

安楽寺

03-3451-1509